

むこの智恵〈ちえ〉だめし（養父町広谷）

むかし、昔。ある所に大〈おお〉けな分限者（金持の家）があったそう。そのえ（家）は、年より夫婦〈ふうふ〉に娘がひとりの三人暮らし。田も畑もよけえあるし、山も広う持つとる。立派〈りっぱ〉な倉〈くら〉が、七とまえも八とまえも（ななやつ）ある。それで、牛飼いや男衆、上女中に下女中、飯たきおなごにせんだくばあさん。大ぜいの人間を使つとる。

ところが、そんなえ（家）じゃけど、娘は、いかず後家（オールド・ミス）かと思うほど、むこがない。それは、てて（父）親が、無理な智恵〈ちえ〉だめしをするじゃ。家はよし、金持ちで、娘は美しいし、やさしいええ娘じゃ。あっちこっちから「わしを、むこにしてくれ。」「わしを智恵だめし、してくれ。」というて、毎日二人、三人くるけど（けれど）、てて親の気に入る若者が無い。そのうちに、娘は、だんだん年をよらせる。まあ、そんなわけじゃった。

ある日のこと、みすぼらしい男が出て来て、

「うら（私）は、むこにしてくれんでもええ。けど、一ぺん智恵〈ちえ〉だめしをしてみてください」という。

見れば、顔は、うすぎたない。着ておる物は、つぎはぎの汚れた山着じゃ。てて親は、一目見て「こんなの、あかんあかん。」思ったけど「いやまてよ、人は見かけによらんもの。」と、思い直して

「まあ、上ってくれえ。」

男が、座敷〈ざしき〉にあがると、だしぬけに、

てて親が「たたかん太鼓〈たいこ〉の鳴る太鼓、どうじゃ。」というて、すかさず

男は「はりこ（紙ばりの入れ物）の中にハチ入れて、たたかん太鼓〈たいこ〉がブンブルブン。」

てて親が「輪のない酒だる、赤いひも。」といえ

男は「そりゃあ（それは）ヒョウタンのことかいな。ふさをまっ赤に染めあげて。」

男は落〈お〉ちついて答える。てて親はすっかり感心して

「もう一つ、一石〈こく〉六斗〈と〉に輪が二つ、桶〈おけ〉も二つじゃ。さてなんじゃ。」

「ハトを二羽のことかいな。」

ハトは八斗、八斗と八斗で十六斗、つまり一石六斗じゃ。二羽で輪が二つ。うまいこというたで、てて親は大よろこび「うちのむこになってくれ。」というて頼み、とうとう、娘のむこにしたそう。

その男は、そのえ（家）の主人になって、ええ智恵をだして、村のためにもなり、しやわせに暮したつていう、めでたい話じゃ。